

〈論文〉

# 児童文学における文学賞の今日的役割と可能性

## —国際児童図書評議会 (IBBY) と国際アンデルセン賞の視察から—

杉原麻美

### 要約

2018年3月、児童文学界の小さなノーベル賞とも謳われる「国際アンデルセン賞」作家賞に『魔女の宅急便』などの作品で知られる角野栄子氏が選出された。日本人としては5人目の受賞で、作家賞は2014年の上橋菜穂子氏の受賞の記憶も新しい中での世界的なニュースであった。この国際アンデルセン賞を主催するIBBY(国際児童図書評議会)は1953年に「子どもの本を通しての国際理解」を理念に誕生した非営利組織で、現在79カ国が加盟している。本稿では、出版不況の中でも健闘している児童書と、児童文学における文学賞について概観したうえで、角野栄子氏の国際アンデルセン賞授賞式が開かれる第36回IBBY世界大会を視察し、その中で行われている研究発表やコミュニケーションを通じて、児童文学における文学賞や国際ネットワークの今日的役割について、4つの視点から論考する。

### キーワード

児童文学 絵本 文学賞 IBBY(国際児童図書評議会) 国際アンデルセン賞

## 1. 研究の背景と目的

### 1.1 出版不況の中での児童書の健闘

日本の出版業界は、市場規模がピークであった1997年から年々縮小している。21世紀に入ってからインターネット環境やスマートフォンの普及によって「紙離れ」が加速し、構造的な出版不況が続いている。2018年上半期(1~6月期)の紙の出版物(書籍・雑誌)の販売金額は6,702億円(前年同期比8.0%減)と前年から大幅に落ち込み、内訳は書籍が3,810億円(同3.6%減)、雑誌が2,892億円(同13.1%減)。これに電子出版の1,029億円(同9.3%増)を加えた「紙+電子」の出版市場は、7,827億円(同5.8%減)だった<sup>1)</sup>。紙媒体の販売落ち込みが大きく、電子出版の増加では賄えない状況にある。

そんな出版不況の中で着目されているのが、前年並みを維持した児童書の健闘だ。とくに、絵本市場は少子化にもかかわらず大人の読者獲得や新進作家の活躍が目立ち、とくに10万部を越すヒット作品が続いた2015年は前年を上回る(309億円で前年6.6%増)ほどの勢いがあった<sup>2)</sup>。出版科学研究所の研究員は「今の親世代は、良質な作品が続々と生まれた昭和40~50年代以降に幼少期を過ごしてお

平成30年10月1日受理

すぎはら まみ: 淑徳大学 人文学部 准教授

り、絵本に良い思い出がある。大人になっても絵本を手に取りやすく、作り手となる人も多い。読み手と作り手双方の増加が好調の要因では」と分析している<sup>3)</sup>。

## 1.2 国際アンデルセン賞の日本人受賞

児童書の分野において、2018年春には日本に大きなニュースが舞い込んだ。児童文学のノーベル賞とも謳われる「国際アンデルセン賞」の作家賞に、『魔女の宅急便』などの作品で知られる角野栄子氏を選出されたのだ。この発表は、賞を主催するIBBY（国際児童図書評議会）が2018年3月にイタリア・ボローニャ市で開催されたボローニャ・ブックフェアの中で行い、2014年に『精霊の守り人』などの代表作をもつ上橋菜穂子氏の同賞受賞の記憶も新しい中での吉報だった。これまでの国際アンデルセン賞の日本人受賞は、作家賞が3名（1994年：まど・みちお、2014年：上橋菜穂子、2018年：角野栄子）、画家賞が2名（1980年：赤羽末吉、1984年：安野光雅）である。世界の児童文学において日本人作家の功績や存在感があらためて示される、国際的なニュースだった。

## 1.3 児童文学がつなぐ世界とのつながり：文化的側面と商業的側面

国際アンデルセン賞を主催するIBBY（国際児童図書評議会）は、79カ国（2018年現在）が加盟している世界的な非営利組織で、発足は1953年に遡る。第二次世界大戦で荒廃したドイツで子どもたちのために図書展を開催しようと呼びかけたユダヤ人のイエラ・レップマンの活動がもととなり「子どもの本を通しての国際理解」を理念とする国際組織が誕生した。現在の本部はスイスのバーゼルにあり、加盟国の各支部と連携しながら、国際アンデルセン賞のほかにも、草の根読書運動を支える「IBBY朝日国際児童図書普及賞」の主催、加盟国が推薦する児童書を紹介する「オナーリスト」の制作、障がいのある子どもたちのためのバリアフリー児童図書展、CHILDREN IN CRISISプログラム（危機にある子どもへの支援活動）、機関誌「Bookbird」の発行など、子どもと子どもの本に関わる人をつなぐ世界的ネットワークとして活動している。日本支部となるJBBY（一般社団法人 日本国際児童図書評議会）は、1974年に設立され、作家、イラストレーター、出版社、編集者、翻訳者、ジャーナリスト、教師、研究者、図書館司書、書店など、多様なステークホルダーが会員となっている。

これらの活動の前提となっているのは、IBBYの組織紹介の中で示されている「子どもの本が他者を理解する寛容の心を育て、生きる希望を生み出す種であると信じる人々の、善意と奉仕の精神」である。

一方、児童書の商業的側面を考えると、海外の本を翻訳して国内で出版する、その逆に、国内の本を翻訳して海外で販売することは出版でのビジネスチャンスとなる。とくに絵本は、イラストレーションや物語が作品の主体で、言葉の壁を超えてロングセラーとなる場合が多いことから、国際的な版權売買が積極的に行われてきた。世界最大の児童書専門のブックフェアであるボローニャ・ブックフェア

2 (Bologna Children's Book Fair) は、イタリアのボローニャ市で1964年から毎年開催されている。ここでは、出版社による版權売買のほか、絵本原画コンクール入選作品の展示、ボローニャ・ラガッツィ賞 (Bologna Ragazzi Award) の受賞者紹介、ワークショップなどが開催され、児童書の最新動向について情報交換が行われる出版文化の交流の場となっている。コンテンツの移り変わりが激しい現代では、国内外から魅力的なコンテンツを見つけ出し、それをスムーズに商品化し、読者まで届け、普及していく必要がある。児童書の出版文化の発展には、本を作る側（作家、イラストレーター、翻訳者、出版社、編集者、印刷会社など）、届ける側（書店、図書館、流通など）、支える側（教育者、学校、親、研究者、ジャーナリスト、NPOなど）が協働して機能することが不可欠で、このような世界的なネットワークの重要性が増している。近年のボローニャ・ブックフェアの来場者は2万5,000人を超える。

## 1.4 本研究の目的：児童書の出版文化を支える文学賞や国際的ネットワークの今日的意義を考える

そこで本研究では、筆者がこれまで研究テーマとしてきた多文化共生社会における協働の場づくり<sup>4)</sup>の視点から、児童文学を捉え直したい。具体的には、国内外の児童文学賞を概観したうえで、角野栄子氏の国際アンデルセン賞授賞式が開かれるIBBY世界大会を視察し、その中で行われている情報共有やコミュニケーションを通じて、児童文学における文学賞や国際ネットワークの今日的意義について論考する。また、結びにはボローニャ市と友好都市交流協定を締結し「絵本文化の発信・醸成」を掲げている板橋区の取り組みについても触れる。

## 2. 児童文学における文学賞の概況

### 2.1 日本国内のおもな児童文学賞と特徴

研究の目的に鑑み、児童文学における文学賞にはどういったものがあるかを整理する。日本のおもな児童文学賞を表1にまとめた。古くから続く文学賞には、戦時下の統制が解除されて出版活動が一気に活性化した1950年代に創設されたものもある。主催者には、出版社、新聞社、作家で組織される協会、自治体などで、受賞作は公募作品から選出される場合と、主催側で選んだ対象作品の中から選ばれる場合とがある。対象となるジャンルは、童話、小説、絵本の場合が多い。

表1. 日本国内の代表的な児童文学賞(50音順)

文学賞名	主催者	創設年	受賞対象	発表時期	補足
朝日学生新聞社児童文学賞	朝日学生新聞社	2009	小学校高学年向けの小説。日本語で書かれた未発表の応募作品。	3月頃	子どもたちに新鮮な驚きと感動を与える良質の小説を発掘するために創設。
巖谷小波文芸賞	日本青少年文化センター	1978	主として、1年間に発表された作品(児童読物、再話、大衆児童文学、翻訳、劇作、編集など)または業績。	7月頃	青少年文化の開拓者として先駆的役割を果たした巖谷小波の業績を記念し、その遺志を社会の中で継いでいくことを目的に創設。
小川未明文学賞	小川未明文学賞委員会、上越市(新潟県)	1992	小学校3～6年生を読者対象とする未発表の応募作品。	11月頃	日本近代童話の父といわれる小川未明の没後30周年を記念し創設。子どもたちの夢と希望を育むような児童文学作品に贈られる。
けんぶち絵本の里大賞	けんぶち絵本の里づくり実行委員会	1991	前年4月1日から当年3月31日までに国内の出版社から発行された絵本で「絵本の里大賞」に応募された作品。	10月頃	北海道小川郡剣淵(けんぶち)町にある「剣淵町 絵本の館」の来館者投票によって大賞を選出。
講談社絵本新人賞	講談社	1979	幼児・児童を読者対象とした未発表の創作絵本。	8月頃	講談社創立70周年を記念して、新しい絵本創作の機運を呼び起こす作品を期待して創設。
講談社児童文学新人賞	講談社	1959	児童を読者対象とした自作未発表の小説及び長編童話。	9～10月頃	講談社創立50周年を記念して創設。第5回から現在の名称に。
講談社出版文化賞絵本賞	講談社	1970	前年3月1日から当年2月末日までに刊行された絵本。	4月頃	講談社創業60周年を記念して創設。さし絵、写真、ブックデザイン、児童漫画、絵本の5部門。
産経児童出版文化賞	産経新聞社	1954	前年1月1日から12月31日までに初版で発行された児童向け図書(学習参考書は除く)	5月頃	「次の世代をにう子どもたちに良い本を」という趣旨で創設。
JBBY賞 およびIBBYオナーリスト	日本国際児童図書評議会(JBBY)	2007	過去3年間に日本で出版された児童書で外国に紹介したい優良図書(文学作品、イラストレーション作品、翻訳作品)を「IBBYオナーリスト」として選出。JBBY賞はこのリストの受賞者と、過去2年間に国際的な賞へ推薦した作家・画家・翻訳者・出版社が対象。	10月頃(隔年)	国際児童図書評議会(IBBY)の日本支部である日本国際児童図書評議会(JBBY)が選出。IBBYオナーリストは海外作品を各国で翻訳出版する際の貴重な資料となっている。

研究論集第4号(2019.3)

児童文芸新人賞	日本児童文芸家協会	1972	前年1月1日から12月31日までに初版刊行された新人作家による創作童話、小説、ノンフィクション、詩、童謡。	4月頃	日本児童文芸家協会の機関誌「児童文芸」の月刊化を機に創設。
児童文芸ノンフィクション賞(福田清人賞)	日本児童文芸家協会	2017	2年間に出版された、優れた児童向けノンフィクション。	4月頃	2006年に創立した福田清人賞を継承し、2017年からは児童文芸幼年文学賞と交互に隔年で行われる。
児童文芸幼年文学賞	日本児童文芸家協会	2016	2年間に出版された日本児童文芸家協会会員による優れた幼年童話・絵本。	4月頃	児童文芸ノンフィクション文学賞と交互に隔年で行われる。
小学館児童出版文化賞	小学館、日本児童教育振興財団	1996 前身は1952	前年4月から当年3月までに発表された絵本、童話・文学、図鑑、事典等の児童出版物。	9月頃	小学館の創業30周年を記念し1952年に創設された「小学館児童文化賞」が、「小学館文学賞」と「小学館絵画賞」に分かれた後、1996年に「小学館児童出版文化賞」として統合。
創作コンクールつばさ賞	日本児童文芸家協会(文化庁後援事業)	1987	2年に一度、児童向けの「詩・童謡」「童話」「読み物」の3部門で公募し、受賞作を選出。	8月頃	最優秀作品には文部科学大臣賞が授与される。新人作家・詩人の登龍門。
長編児童文学新人賞	日本児童文学者協会	2002	小学生中学年から中学生を対象にした未発表の長編創作児童文学。	5月頃	児童文学の世界に新風を吹き込む長編小説に贈られる。受賞資格は高校生(もしくはは同年齢)以上。
坪田譲治文学賞	岡山市、岡山市文学賞運営委員会	1984	前年9月1日から当年8月31日までの1年間に刊行された文学作品。	1月頃	岡山市出身の小説家・児童文学作家である坪田譲治の業績を讃え創設。
JXTG児童文化賞(旧:東燃ゼネラル児童文化賞)	JXTGホールディングス	1966	日本の児童文化の発展・向上に大きく貢献した個人または団体を選出。作家が選出される場合もある。	8月頃	東燃ゼネラル児童文化賞(1966年創設)を、2017年4月のJXグループと東燃ゼネラルグループの経営統合を機に名称変更。
日本絵本賞	全国学校図書館協議会、毎日新聞社	1995	10月1日から翌年の9月30日までに日本で出版された絵本。	3月頃	絵本芸術の普及、絵本読書の振興、絵本出版の発展に寄与することを目的に創設。
日本児童文学者協会賞	日本児童文学者協会	1961 前身は1951	前年1年間に出版された創作単行本、詩集、評論・研究書。	5月頃	1951年に創作を活発にするために創設された「児童文学者協会児童文学賞」と新人発掘のために創設された「児童文学者協会新人賞」を統合し、1961年に創設。
日本児童文学者協会新人賞	日本児童文学者協会	1968	前年1年間に出版された創作単行本、詩集、評論・研究書。(初作及び2冊目まで)	5月頃	優れた児童文学作品(単行本)を世に送った新人に贈られる。
日本児童文芸家協会賞	日本児童文芸家協会	1976	前年1月1日から12月31日までに刊行された作品。	4月頃	日本児童文芸家協会の初代会長、浜田広介の遺徳を偲び創設。1年間に出版された協会会員の作品の中から、最優秀と認められた著作に贈られる。
野間児童文芸賞	野間文化財団	1963	前年8月1日から当年7月31日までに、新聞・雑誌・単行本等に新しく発表された作品。児童向けに創作された小説・童話・戯曲・ノンフィクション・詩・童謡など。	11月頃	講談社の初代社長、野間清治の遺志によって設立された財団法人野間文化財団の公共の事業として、野間文芸賞に包含されていた児童部門を独立させて創設。
ひろすけ童話賞	ひろすけ童話賞委員会(山形県高島町、高島町教育委員会、浜田広介記念館、日本児童文芸家協会)	1990	前年7月1日から当年6月30日までに単行本・新聞・雑誌に新たに発表された幼児から小学校低学年向けの童話(絵本は除く)	9月頃	日本のアンデルセンと謳われた日本児童文芸家協会初代会長、浜田広介の業績を讃え創設。新たな童話世界の創造と発展に資する、特に優れた幼年童話を創作した作家を顕彰。
福島正実記念SF童話賞	岩崎書店、創作集団プロミネンス(前身:少年文芸作家クラブ)	1983	小学3、4年生から読め高学年でも楽しめるSF及びSF的なファンタジー、冒険、ミステリー、ホラー、ナンセンスなどの空想物語。	4月頃	SF童話の分野に先駆的な業績を残した福島正実を記念し創設。児童文学に新風を吹き込むような優れた新人と作品の発掘を目指す。
三越左千夫少年詩賞	日本児童文学者協会	1997	前年1月1日から12月31日までに出版された中堅、新人詩人による少年少女詩集(童謡詩集を含む)	5月頃	詩、童謡を中心に活動をした詩人三越左千夫の遺族の申し出により、少年少女詩の振興を図ることを目的に創設。

※国立国会図書館国際子ども図書館ホームページ<sup>5)</sup>、各賞のホームページをもとに作表した



## 2.2 海外のおもな児童文学賞と特徴

次に、海外のおもな児童文学賞を表2にまとめる。米国のニューベリー賞(1922年～)、コルデコット賞(1938年～)、英国のカーネギー賞(1936年～)は第二次世界大戦前に創立された文学賞で、その他の多くは大戦後に創立されている。国際アンデルセン賞(1956年～)を除き、大半の文学賞は主催国の作品から選出するか、同一の言語圏を対象にしている。

表2. 海外の代表的な児童文学賞

文学賞名	国・地域	主催者	創設年	対象	発表時期	補足
国際アンデルセン賞 (Hans Christian Andersen Awards)	国際	国際児童図書評議会 (International Board on Books for Young People: IBBY)	1956	全業績が児童文学に永続的な貢献をしたとされる、存命の作家と画家。	偶数年の3月頃	隔年で選出される1956年に第1回作家賞が授与され、1966年から画家賞が加わった。
中国全国優秀児童文学賞 (全国优秀儿童文学奖)	中国	中国作家協会	1986	一定期間に発表された児童文学作品。ジャンルごとに数作品選定される。	数年に1回3月頃	中国の全国規模の児童文学賞。
ニューベリー賞 (Newbery Medal)	米国	米国図書館協会児童サービス協会 (Association for Library Service to Children, American Library Association: ALSC)	1922	前年に米国で出版された英語で書かれた児童図書(全分野)。米国民、米国在住の作家が対象。	1月頃	世界で最初の児童文学賞。18世紀の英国で児童図書の出版に携わったジョン・ニューベリーの名を冠し創設。
コルデコット賞 (Caldecott Medal)	米国	米国図書館協会児童サービス協会 (Association for Library Service to Children, American Library Association: ALSC)	1938	前年に米国で出版された英語で書かれた絵本(全分野)。米国民、米国在住の絵本作家が対象。	1月頃	児童書の挿絵を描いた19世紀の英国の画家ランドルフ・コルデコットの名を冠し創設。
スコット・オデール賞 (Scott O'Dell Award for Historical Fiction)	米国	スコット・オデール賞選考委員会 (Scott O'Dell Award Committee)	1982	カナダ、中南米、米国を舞台とし、児童・ヤングアダルト向けに英語で書かれ、前年に出版された歴史小説	2月頃	米国の子ども向け歴史小説作家スコット・オデールが、新進作家の執筆を促し若い読者の歴史への関心を高める目的で創設。
フェニックス賞 (Phoenix Award)	米国	米国児童文学協会 (Children's Literature Association: ChLA)	1985	20年前に出版された英語で書かれた児童図書で、発行当時には主な文学賞を受賞していない作品が対象。	6月頃	まだ多くの人には知られていないが高い文学性をもつ作品を発掘し表彰するために創設。
ゴールデン・カイト賞 (Golden Kite Award)	米国	米国児童図書作家・画家協会 (Society of Children's Book Writers and Illustrators: SCBWI)	1973	SCBWIの会員が手掛けた児童文学作品の中から、優れたものを選出。フィクション、ノンフィクション、絵本(文)、絵本(絵)の4部門。	3月頃	
エドガー賞 児童図書部門 ヤングアダルト小説部門 (Edgar Allan Poe Awards; Best Juvenile, Best Young Adult)	米国	米国探偵作家協会 (Mystery Writers of America: MWA)	1946	前年に米国で発表されたミステリー作品。エドガー賞の13部門のうち、児童文学が対象になるものがこの2部門。	5月頃	米国の作家エドガー・アラン・ポーの名を冠し、米国で最も権威があるミステリージャンルの文学賞。
ボストングローブ・ホーンブック賞 (Boston Globe-Horn Book Awards)	米国	ホーンブック、ボストングローブ (The Horn Book, The Boston Globe)	1967	6月から翌年5月までの間に米国で出版された、児童・ヤングアダルト向けの図書(教科書、電子図書、オーディオブック、手稿を除く)。フィクションと詩、ノンフィクション、絵本の3部門で選出。作家・画家の国籍は問わない。	6月頃	
全米図書賞 児童文学部門 (National Book Award for Young People's Literature)	米国	全米図書財団 (National Book Foundation)	1996	前年12月からの1年間に米国で出版された図書。米国民である作家が対象。	11月頃	全米図書賞は1950年の創立で、1969年から児童図書部門(Children's Books)が設定されたが1984年に廃止。1996年から「児童文学部門」として設定。

研究論集第4号(2019.3)

コスタ賞 児童図書部門 (Costa Book Award ; Children's Book)	英国、 アイル ランド	英国・アイルランド書籍 販売社協会 (Booksellers Association of Great Britain and Ireland)	1971	前年11月からの1年間に 英国またはアイルランド で最初に出版された図 書。英国またはアイル ランド在住の作家が対象。	1月頃	旧ホイトブレッド文学賞、 ホイトブレッド図書賞のス ポンサーが2006年にコスタ コーヒーになり賞名変更。
ボローニャ・ラガツ ツイ賞 (Bologna Ragazzi Award)	イタリ ア	ボローニャ・ブックフェア (Fiera del Libro per Ragazzi Bologna Children's Book Fair)	1995 初期は 1964	ブックフェアの出展者で ある出版社や団体が過去 2～3年に出版した児童 図書が対象。イラスト、 テキスト、デザイン、編 集、装丁、印刷などを総 合的に評価し本そのもの に贈られる。	2月頃	1964年に初期の賞が創設さ れ、1966年に専門家の選ぶ 賞と子どもの選ぶ賞に分か れた後、1995年にこの2つ の賞を統合。
リンドグリーン記念 文学賞 (Astrid Lindgren Memorial Award)	スウェ ーデン	スウェーデン・アーツ・ カウンシル (Statens kulturråd Swedish Arts Council)	2002	リンドグリーンにつな がる、ヒューマンニズムの 精神に満ちた、優れた作 品を生んだ者、あるいは 児童・青少年の読書推進 に貢献した者・団体。	3月頃	スウェーデンの児童文学作家 アストリッド・リンドグ レーンの功績を記念し、ス ウェーデン政府によって 創設。
CBI最優秀児童図書賞 (CBI Book of the Year Award)	アイル ランド	チルドレンズ・ブックス・ アイルランド (Children's Books Ireland : CBI)	1990	出版地を問わず前年に 出版された英語および アイルランド語の図書 (フィクション、ノン フィクション、詩、ア ンソロジー(翻訳及び 教科書を除く)で、 アイルランド出身ま たはアイルランド在住 の作家・画家。	5月頃	食品メーカーのピストが 児童文学作家や絵本作 家に対し授与したことを 受けて創設。2012年 にピスト最優秀児童 図書賞から名称変更。
カーネギー賞 (Carnegie Medal)	英国	英国図書館情報専門協 会 (Chartered Institute of Library and Informa tion Professionals : CILIP)	1936	児童・青少年向けに英 国で最初に出版された 図書の著者。	6月頃	2,800以上の図書館の 設立に携わったスコ ットランド生まれの 慈善家アンドリュ ー・カーネギーに ちなんで創設。
ニルス・ホルゲション賞 (Nils Holgersson Plaketten)	スウェ ーデン	スウェーデン図書館協 会 (Sveriges Biblioteksforening Swedish Library Association)	1950	前年にスウェーデン で刊行された児童・ ヤングアダルト作 品または作家の 全業績。	9月頃	1909年にスウェー デン人・女性作家 として初めてノー ベル文学賞を受賞 したセルマ・ラ ーゲルレーヴの『 ニルスのふしぎな 旅』の主人公の名 を冠して創設。
ドイツ児童文学賞 (Deutscher Jugendliteraturpreis German Youth Literature Prizes)	ドイツ	ドイツ家族省 (Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend)	1956	前年に出版された 作品が対象。絵本、 児童図書、ヤング アダルト図書、ノ ンフィクション、 青少年審査員賞の ほか、画家、翻 訳家のこれまでの 全業績を評価する 特別賞の部門も ある。	10月頃	ドイツで唯一、国 が主催する文学 賞。
ラサリーリョ賞 (Premio Lazarillo)	スペイン	スペイン児童・ヤング アダルト文学協会 (Organizacion Espanola Para el Libro Infantil y Juvenil : OEPLI)	1958	スペイン国内で使 用されている言語 で書かれた未出版 の作品。文学部門 とイラストレーシ ョン部門がある。	12月頃	1997年以降は、 1年ごとに交代 で、児童向けの作 品と12歳以上の ヤングアダルト 向けの作品を対 象として選出。
オーストラリア児童 図書賞 (Children's Book of the Year Awards)	オース トラリア	オーストラリア児童 図書評議会 (Children's Book Council of Australia : CBCA)	1946	18歳未満向けに英 語、または英語を 含む2か国語で書 かれ、前年1年間 に出版された、オ ーストラリアで入 手可能な図書。	8月頃	
エスター・グレン賞 (Esther Glen Award)	ニュー ジー ランド	ニュージーランド・ アオテアロア図書 情報協会 (Library and Information Association of New Zealand Aotearoa : LIANZA)	1944	0歳～15歳向け 児童文学における ニュージーランド 国民又はニュー ジーランド在住 の作家。	8月頃	ニュージーランド の児童文学作家・ 編集者エスター・ グレンにちなんで 創設。

※国立国会図書館国際子ども図書館ホームページ<sup>6)</sup>、各賞のホームページをもとに作表した

### 2.3 選出対象・選出方法からの分類

これらの文学賞は、選考対象・選考方法の観点から3つに大別できる。

- ① 該当期間に出版された作品の中から優れた作品を選出するもの
  - ② 公募原稿の中から選出するもの
  - ③ 文学や芸術への貢献・業績に対して作家などの個人に贈るもの
- さらに主催側と受賞側における意義づけで考えると、表3のようにまとめられる。

表3. 文学賞の分類と主催側、受賞側からの位置づけ

文学賞の分類	主催側の目的	受賞側の意味
① 該当期間に出版された作品の中から優れた作品を選出するもの	優れた作品の発掘による文学発展の推進	作品の認知拡大
② 公募原稿の中から選出するもの	新人発掘（出版社） 地域活性（自治体）	デビューの機会創出
③ 文学や芸術への貢献・業績に対して作家などの個人に贈るもの	持続的な創作活動と功績を称賛することによる文学発展	功績に対する承認

なお、この分類は児童文学以外の文芸ジャンルにも共通する。たとえば②の例では、日本で近年急増しているライトノベルの各賞が挙げられる。量産されるライトノベルの新たな書き手の発掘の場として、各出版社はレーベルごとに賞を設定するなどして新人の発掘に力を入れている。これらは商業的側面の強い文学賞で、中には高額な賞金を設定している場合もある。

一方、文化的側面がもっとも強い文学賞が③である。児童文学では国際アンデルセン賞が、文学全体ではノーベル文学賞がこれに該当する。①が1～2年の期間内での作品を対象に選出されるのに対して、③では、特定の期間に寄らず、持続的な創作活動を行っている作家の長期に渡る功績に目が向けられる。

## 3. IBBY（国際児童図書評議会）世界大会の視察

### 3.1 IBBY（国際児童図書評議会）と世界大会

本章では、国際アンデルセン賞を主催しているIBBY（International Board on Books for Young People：国際児童図書評議会）が2018年8月30日～9月1日に開催した第36回 IBBY世界大会の視察をもとにまとめる。IBBYには前述の通り現在79カ国が加盟しており、隔年で世界大会を開催している。この世界大会では、各支部やIBBY全体の活動報告のほか、大会テーマに合わせた研究や実践などについて世界中の有識者から募りプレゼンテーションが行われる。第36回の大会テーマは、「East meets West around children's books and fairy tales」であった。世界大会の開催中に国際アンデルセン賞の授賞式が行われることから、とくに今回は作家賞に選出された角野栄子氏の受賞もあってIBBYの日本支部JBBYの会員を中心に40名近くの日本人編集者、関係者らが受賞式に参加していた。

今回の世界大会の会場は、ギリシャの首都アテネの市内中心部に位置するメガロン・アテネ国際会議場だった。世界大会の開催地は各支部の立候補を基本として決定されている。当初、36回世界大会はトルコ支部が主幹でイスタンブールでの開催が決まっていたが、中東情勢やテロの影響でトルコでの開催が危惧され中止になり、2017年に隣国のギリシャが立候補しアテネで開催することとなった。





図1 第36回 IBBY世界大会の会場となったメガロン・アテネ国際会議場



図2. IBBYオナーリスト2018の作品展示コーナー（左、中央）と表彰式（右）

### 3.2 IBBY オナーリスト

会場受付を入ったロビーには、各国から選出された「IBBYオナーリスト2018」の本を紹介する本棚が並ぶ。IBBYオナーリストとは、2年に一度、IBBYの各支部が自国で出版された児童書の中から海外の子どもたちに読んでほしい本を推薦するもので、国際アンデルセン賞と同じ1953年に発案されたものである。



図3. IBBYオナーリスト2018に日本から選出された3作品

第1回のオナーリストは12カ国15冊だったというが、2018年は過去最大の冊数となり、61カ国50言語191冊が選出された。この全191作品を詳しく紹介した約130ページの冊子も会場で配布された。（なお、オナーリストの選出作品はIBBYのホームページでも紹介されている。）

世界大会2日目の午後には、IBBYオナーリストの表彰式もあった。表彰式では、スクリーンで1冊ずつ本が紹介され、受賞者の中で会場に駆けつけた35人が舞台上がり、賞状を授与された。

なお、日本からIBBYオナーリスト2018に選出されたのは、以下の3作品である。

【作家部門】小説『フラダン』古内一絵（小峰書店）

【イラストレーション部門】『ドームがたり』スズキコージ絵、アーサー・ビナード作（玉川大学出版部）

【翻訳部門】『お静かに、父が昼寝しております—ユダヤの民話』母袋 夏生（編集、翻訳）、（岩波書店）



### 3.3 国際アンデルセン賞授賞式

国際アンデルセン賞の授賞式は、世界大会2日目の夜、ギリシャ新国立図書館に隣接する新国立オペラハウスに会場を移し開催された。受賞者は、作家賞が角野栄子氏、画家賞はロシアのイゴール・オライニコフ(Igor Oleynikov)氏で、メダルと賞状の授与の後、それぞれスピーチを行った。角野栄子氏のスピーチはスライドに英訳を映しながら日本語で行われた。印象的だったのが前半のこの一説である。ここで私の思い出の「オノマトペ」をひとつ声に出していきまようと思います。

どんぶらこっこーう すっこっこーう

どんぶらこっこーう すっこっこーう

みなさん、どんな情景を思い浮かべましたか？

これは、5歳で母を亡くした角野栄子氏が父親の膝の上で聞かせてもらった『桃太郎』のオノマトペの話である。日本の古い家屋は開口部が大きく、窓や引き戸を全部開けると家の中と外の世界が一体につながるため、日本では、常に人々の暮らしの中に、鳥の鳴き声、風や雨の音、生活の音などがあふれ、音を聞いて想像力を働かせ、情報を得てきた歴史がある、と語った。オノマトペには窮屈なルールはなく、感じたままの表現が許され、自由なものであること、そして、このオノマトペの語感、リズム、音の響きが、物語をいっそう楽しいものにしてくれることにも触れた。スピーチはその後、自身がブラジルでの生活を経て、34歳で処女作『ルイジンニョ少年』を書くことになったいきさつ、42歳で2冊目を出すまでのブランクについても触れている。そして、終盤には、「過酷な戦争の中で、物語にととてもとても慰められました。安心を与えてもらいました。あの厳しい時代を生きていく力を与えてもらったと思います」と、自身が子どもの頃に物語に助けられてきた話が語られた。そして、結びには物語のもつ力について以下のように語っている。

私は、こう考えています。物語は、私が書いたものであっても、読んだ瞬間から、読んだ人の物語になっていく。読んだ人一人一人の物語になって生き続ける。そこが物語の素晴らしいところだと思います。そして、その時、感銘を受けた言葉、その時の空気、その時の気持ち、想像力などが、一緒になって、その人のからだのなかに重なるように入っていく、それが、その人の言葉の辞書になっていく。その辞書から、人が与えられた大きな力——想像力が生まれ、そして創造する力のもとになっていくと思っています。それはその人の世界を広げ、つらいときも励まし助けてくれるでしょう。

ルイジンニョが言ったように、同じ鼓動を持つ人間同士です。今は難しい時代であるけれども、地域を越えて、物語には大きな力があると信じています。そう信じて、これからも書き続けて参り



図4. 国際アンデルセン賞授賞式と各メディア撮影に応じる受賞者(中央:角野栄子氏、右:イゴール氏)

ます。世界中の皆様、これからも私の物語を読んでください。再度、「ありがとう」と申し上げて、私の話を終わらせていただきます。エフハリスト（ありがとう）。

(授賞式でのスピーチ全文は、JBBYのホームページで英訳とともに紹介されている。)<sup>7)</sup>

戦争と異国生活を経験してきた作家自身が、物語の力に支えられ、物語の力を信じて書き手として書き続ける覚悟を語ったスピーチだった。会場からは多くの拍手が贈られた。

なお、授賞式が行われた会場はアテネの南部にあるカリテア地区の広大な敷地に建設されたスタブロス・ニアルコス財団文化センター(Stavros Niarchos Foundation Cultural Center: SNFCC)の一画にある。SNFCCは学術、アート、エンターテインメントの活性化を目的に2016年に竣工した複合施設で、イタリアを代表する建築家レンゾ・ピアノ氏によって設計された。オリーブやハーブが植えられた21万平方メートルもの屋上庭園やイベントにも使用される長い運河を有し、自然と建築物が一体化した建築になっている。SNFCCの中心となる新国立図書館は、広々とした吹き抜けの建物で、地域住民に愛される場所となっている。なお、アテネはユネスコが選定する“UNESCO World Book Capital (本の首都)”の2018年の都市に選ばれている。この選定都市は、1年間を通じて図書と読書の促進を目的とする活動を行うことになっており、アテネでは移動図書館やワークショップが開催されている。

### 3.4 開催国ギリシャからの文化発信

世界大会では、その開催国ならではの文化を発信しながら世界からの参加者や受賞者をもてなすことが慣例となっている。今大会のオープニングセレモニーでは、ギリシャの古典楽器の演奏と歌が、エンディングセレモニーでは民族衣装を纏った伝統的なダンスが披露された。最後のダンスでは、会場中の参加者が手をつないで輪になり、3日間のプログラムを和やかに締め括るエンディングとなっていた。

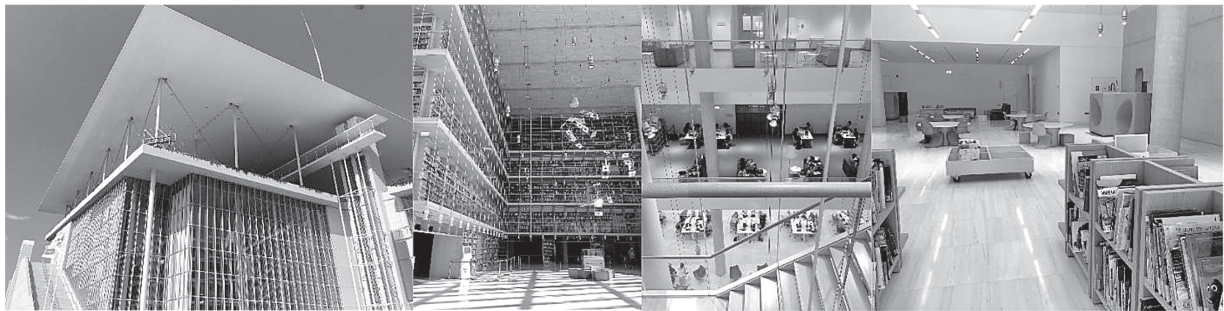


図5. 国際アンデルセン賞授賞式が行われたギリシャ新国立オペラハウス（左）と併設の新国立図書館

10



図6. オープニングとエンディングで披露されたギリシャの古典楽器と伝統的なダンス



#### 4. 考察：児童文学における文学賞や国際的なネットワークが担う役割と可能性

先行研究(八幡, 2005)では、「国際アンデルセン賞は自国の優れた作品を世界中で紹介すると同時に世界の優れた作品に出合うチャンスを与える役割も担っている。」と述べたうえで、同賞における課題として、翻訳の問題、各国の経済状況による格差の問題、審査委員の選出バランスが挙げられている<sup>8)</sup>。

ここで掲げられた課題は、その後、自動翻訳の技術が進み仮翻訳は手軽になっていること、インターネットやSNSの普及でビジュアルのやりとりが容易になり誤解が少なくなったこと、IBBY加盟国が増えて裾野が広がっていることなどから、状況は進化、改善していると考えられる。

本稿では、国際アンデルセン賞そのものの評価ではなく、今回の研究と視察を通して確認できた児童文学における文学賞や国際的なネットワークの担う今日的な役割について、4つの視点で論考する。

##### 4.1 視点① 出版文化を支えるステークホルダーの交流機会

児童書の出版文化の発展には、第1章に触れた通り、本を作る側、届ける側、支える側の協働が欠かせない。そのベストプラクティスを世界的な視野で共有できる場として、このようなステークホルダーが交流し情報交換ができる場はますます重要になっていると思われる。たとえば、生活上のメディア環境が変化する中で子どもたちへの読書活動をどのように広げていくのか、依然として貧富の差が広がる社会でどのように貧困層にまで本を届けていくのか、などのテーマは、世界共通の課題である。国によって支部を構成する組織の傾向が異なり、図書館や司書が多い国や日本のように出版社がリードしている国など様々だが、ステークホルダーが課題を共有し合うことで環境の向上につながっているのだ。

##### 4.2 視点② 異文化理解や多様性受容につながる児童書の発掘・認知拡大

児童書には、その時代の社会構造や社会課題を映す作品が少なくない。国際理解を子どもの本で推進するIBBYはとくにこの傾向が強いと言えるだろう。IBBY研究大会の発表にも、物語を通して異文化理解を促す作品や移民側の立場から描かれた作品の研究があった。グローバル化が加速し異文化間の相互理解や協働がこれまで以上に求められる多文化共生社会では、このような多様な文化や価値観を理解するきっかけとなる児童書の役割は、今後も一層大きくなるであろう。

##### 4.3 視点③ 歴史を伝え、世代間をつなぐ児童書の発掘・認知拡大

IBBYオナーリスト2018に選出された児童書『ドームがたり』は、広島原爆ドームが語る物語で、終戦から73年を迎える現代にも力強く当時の状況と平和への祈りを伝えている。前回2016年は『希望の牧場』で、福島原発事故のメッセージが込められている。これらはオナーリストに挙げたことをきっかけに日本国外でも読まれる機会が増えていくであろう。

また、文学にはそのときどきの歴史を伝える作品も多いが、とりわけ児童文学では、その作品で語られる時代だけではなく、物語の読み聞かせといった親子世代をつなぐ媒体としての役割もある。第1章で紹介した昨今の絵本市場健闘の背景に、良質な絵本に恵まれた幼少期を過ごした親世代の影響が考察されていたように、良質な児童書に触れる文化は世代間で引き継がれていく。今回の角野栄子氏の受賞によって、久しぶりに角野作品を子どもとともに手にとった親世代も少なくないだろう。アテネ日本人会が2018年9月1日に行った角野栄子氏の読み聞かせ交流会には、母親が子どもの頃に同氏の本を読んだという家族が集まっていた。



#### 4.4 視点④ 「物語の力」をもつ児童書の育成・発展

生まれたときからインターネットやスマートフォンがある環境で育つ子どもたちにも、想像力を働かせて未知の世界に触れる機会として「物語」は欠かせない。ある子どもには創造力の源泉になり、ある子どもには現実から離れた世界に没入できる癒しとなり、また、戦争、難民、自然災害、異常気象、AI化する社会など、現実社会に厳然と存在するテーマとどのように向き合っていくのか、あるいは、文化的な背景や志向の異なる人同士がどう共存していくのか、などを考える機会やヒントにもなる。そのような「物語の力」をもつ児童書を、今後も持続的に育成・発展させていくことが求められるだろう。

なお、雑誌AERA(2018年7月23日号)の誌上で、角野栄子氏が高橋源一郎氏(作家、明治学院大学国際学部教授)との対談において、最後をこのように結んでいる。

高橋「生まれたときからインターネットやスマホがある世界に生まれた子どもたちでも、やっぱり物語は必要なんですよね。それは変わらないと思います。」

角野「そうなのでしょうね。本の場合は書かれている世界を想像しながら読むから、その瞬間から、読者だけの物語になっていくのよね。私が書いたものでも、読者その人の物語になる。そこが本で物語を読むことの素晴らしいところだと思うの。」

高橋「物語は終わらなくてもいいんですよ。入りこむことさえできれば。」

角野「お話が終わっても、また別の扉が開くの。本って、そういうものだと思います。」<sup>9)</sup>

### 5. 今後の展望と可能性

淑徳大学東京キャンパスが所在する板橋区は、子どもの本とのつながりが深い自治体のひとつである。

板橋区立美術館(東京都板橋区赤塚:改修工事のため2018年4月から2019年6月頃まで閉館中)がボローニャ・ブックフェアの入選作品を紹介する「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」を1981年に開催して日本巡回展の幹事館になったことをきっかけに、絵本を通じた板橋区とボローニャ市の交流は深まり、交流25周年の2005年には友好都市交流協定を締結している。また、2004年にはこれまでにボローニャから板橋区へ寄贈された世界の絵本を自由に閲覧できる常設図書館として、旧・板橋第三小学校の一角に「いたばしボローニャ子ども絵本館」が開設された。小さな空間ながら世界約100か国、2万6千冊、70言語の絵本が所蔵され、地域の子どもはもちろんのこと、絵本、イラストレーション、海外図書に関心を寄せる大人も遠方から来館している。筆者が訪れた2018年2月には、平昌五輪にあわせた展示コーナーがあり、韓国の絵本が日本語翻訳の絵本とともに楽しめるようになっていた(図7)。また、板橋では絵本の魅力を発信する街として、平成32年度の開館を目指す新しい板橋区立中央図書館にボローニャ子ども絵本館の併設を予定している。

12



図7. 世界100か国の海外絵本が閲覧できる「いたばしボローニャ子ども絵本館」(東京都板橋区本町)

絵本はこのように国・地域・文化・言語を超えて楽しめるコンテンツであり、異文化を知る機会や、新たな人とのつながりが生まれるメディアとも言える。本稿の冒頭で指摘したように出版界で児童図書があらためて着目される潮流がある中で、板橋だけでなく全国の自治体で子ども図書館の設立が相次いでいる。新しいコミュニティスペースとして注目され、出版文化における児童図書の役割に鑑みながら、大学教育での活用、地域での連携や貢献につながる活動の可能性を模索していきたい。

謝辞1 本研究は、科研費 基盤研究(C) 16K00719の助成を受けたものである。

謝辞2 本研究の視察に協力頂いたJBBY事務局長 鳥塚尚子氏、子どもの本ジャーナリスト(マイティブック) 松井紀美子氏に深く感謝する。

## 引用文献

- 1) 出版科学研究所「2018年上半期 書籍・雑誌分野別動向」『出版月報』60(8), 2018, p.4-6
- 2) 「絵本革命起きた! 10万部超すヒット続々」『日本経済新聞』電子版 2017年1月15日
- 3) 「絵本売れ行き好調 大人も夢中、良質な作品が生む好循環」『産経新聞』2016年9月5日
- 4) 杉原麻美『多文化共生社会における協働学習』学文社, 2018
- 5) 「児童文学賞一覧: 国内の主な児童文学賞」国立国会図書館 国際子ども図書館 ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/info/award/index.html#shogakukan> (2018年9月28日アクセス)
- 6) 「児童文学賞一覧: 海外の主な児童文学賞」国立国会図書館 国際子ども図書館 ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/info/award/foreign.html> (2018年9月28日アクセス)
- 7) 「【第36回IBBY世界大会】2日目-2(8/31) 国際アンデルセン賞授与式」JBBY ホームページ <http://jbbj.org/news/index02.html#post-933> (2018年9月28日アクセス)
- 8) 八幡眞由美「現代の児童文化におけるJBBYの意味と価値について」『高崎健康福祉大学紀要』5, 2006, p.123-138
- 9) 角野栄子、高橋源一郎 対談「読んだ瞬間から あなただけの物語: スマホ世代の子どもでも、やっぱり物語は必要なんです」『AERA(2018年7月23日号)』31(34), 2018, p.42-43